

公益財団法人日本海事センター

第54回理事会議事録

- 1 開催場所 海事センタービル「4階会議室」
- 2 開催日時 令和4年3月2日（水）11時30分～12時00分
- 3 理事現在数及び定足数
現在数 12名、定足数7名
- 4 出席理事 10名
（本人出席）宿利正史、平垣内久隆、下野元也、葛西弘樹、竹中五雄、
寺門雅史、徳留健二、細川淳、山下友信
（ウェブ出席）藤丸明寛
（欠席理事）久保田浩司、日野岳穰
（出席監事）石川尚、阪本敏章、中本光夫
（議案説明及び報告）下野元也常務理事
- 5 議案 第1号議案「令和4年度事業計画書及び収支予算書等」について
第2号議案「規程類の改正」について

報告事項 ①第50回理事会以降の業務執行状況について
②第33回評議員会の決議内容について

6 会議の概要

(1) 定足数の確認

冒頭で国安総務部長からウェブ出席の藤丸明寛理事も含め定足数の充足を確認した。

(2) 議案の審議状況及び議決結果

定款に基づき、宿利正史会長が議長となり、ウェブ出席の理事も含め、議案の審議に入った。

また、議長は、定款第47条第2項の規定に基づき、議事録署名人は代表理事及び監事になる旨を告げた。

(決議事項)

第1号議案「令和4年度事業計画書及び収支予算書等」について

議長の求めに応じ、下野元也常務理事から、「令和4年度事業計画書（案）」、「収支予算書（案）」及び「資金調達及び設備投資見込に関する書類」について議案説明があった。

次のような質疑応答があった。

(徳留理事)

①調査研究や補助金についてPDCAサイクルを確立する旨明文化したことは結構なことだが、これについては、何かいきさつがあったの

か。

②調査研究について、調査を行う、政策提言を行うと書き分けてあるが、具体的にどう提言を行っていくのか。また、過去においてそういうものが、具体的にあったなら教えてほしい。

(下野常務理事)

①従来から調査研究の内容の更新、達成度の確認等を行ってきたが、PDCAサイクルを明文化したのは、そのことに関して一般の人々に対する情報提供が十分でなかったこと、関係者の理解を深め提起したいという思惑からです。

②我々の調査研究は、日本船主協会や国土交通省からの要望に基づいて行っているものが大半だが、政策提言は、主に自主研究についてステークホルダーに我々として取り組んで、提言したいという意図がある。

(竹中理事)

①「海事人材の確保・育成」について、海外での調査研究を進めるに当たって、コロナ渦でどこまで行えるのか。また、日本からの調査団を派遣できなくなった場合、どういう代替手段を考えているのか。

(下野常務理事)

①海外に派遣できなかった場合は、海外の現地事務所、税理士事務所等に委託したり、リモート会議での情報収集、メールでの打診等、試行錯誤しながら行っていきたい。この場合、予算として計上している海外旅費などは別の項目にくみ分けて実施することとなる。

審議の結果、原案どおりウェブ出席の藤丸明寛理事を含め出席理事全員一致で可決した。

第2号議案「規程類の改正」について

議長の求めに応じ、下野元也常務理事から規程類の改正原案の説明があった。説明によると、「事務局組織運営規程」は、研究員の処遇改善に伴う職名を職制に明記する改正、「職員給与規程」は、研究員の処遇改善に伴う役職手当の支給を明記する改正であった。

審議の結果、原案どおりウェブ出席の藤丸明寛理事を含め出席理事全員一致で可決した。

(報告事項)

①業務執行状況について

下野元也常務理事から、令和3年5月24日開催の第50回理事会以降の公益目的事業の調査研究・政策提言事業、海事関係図書館の管理、運営事業及び海事関係公益活動支援事業、収益事業の海事センタービル

の管理、運営事業及び融資事業に係る業務執行状況を報告し、了承された。

②第33回評議員会の決議内容について

下野元也常務理事から、第33回評議員会（令和3年9月17日開催、書面決議）の決議内容を報告し、了承された。

以上をもって議案の審議等を終了したので、12時、議長は閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した代表理事及び監事は記名押印する。

令和4年3月2日

代表理事 宿利 正史

監 事 石川 尚

監 事 阪本 敏章

監 事 中本 光夫